

短歌

はしもとたけこ
橋本武子



周防大島町
(1913～1992)

橋本武子は現・周防大島町に塩田主の長女として生まれる。久賀高等女学校時代より独学で短歌を詠み始め二十五歳の時短歌人会を主宰する齋藤瀏に師事し第一回齋藤瀏賞を受賞している。また、昭和二十一年（一九四六）には「青潮短歌会」を設立、同時に主宰となり歌誌『青潮』を創刊した。著書に歌集『黒衣』『ゆく水』『水辺唱』ほかがある。その他岩国市と周防大島町に歌碑がある。

*まもられてあるを信ぜむ夜半に聞く
しぐれの声のさみしかるとも

*水草の花には触れず幽かなる
ひかりとなりて螢ただよふ

（音羽 晃）

【主な著作】

歌集『黒髪抄』（臼井書房、昭和24年）

歌集『黒衣』（新星書房、昭和32年）

歌集『ゆく水』（短歌新聞社、昭和47年）